

令和 6 年度第 2 回阿賀野市行政改革推進委員会 発言要旨

I 議事概要

①会議名 令和 6 年度 第 2 回阿賀野市行政改革推進委員会

②開催日時 令和 7 年 3 月 7 日（金） 午後 3 時 00 分から午後 4 時 40 分まで

③開催場所 市役所 1 階 第一多目的ホール

④出席者の氏名（敬称略）

- （１）出 席：伊藤（閲）委員長、伊藤（等）委員長職務代理、阿部委員、荒木委員、市村委員、上松委員、権瓶委員、齋藤委員、佐藤委員、
宍戸行政改革推進アドバイザー
- （２）事務局：企画財政課（西潟課長、長峰課長補佐、佐々木企画係長）
管財課（渡邊課長、田村管財係長）

⑤議題

- （１）阿賀野市行政改革推進計画（次期計画）について
- （２）答申内容について

II 発言の要旨

1 開会

議題の前に、公共施設の再編の必要性を共有するために、公共施設等総合管理計画及びアクションプランについて、事務局から説明。

○アドバイザー K P I を定めてあるが、目標年度がわからない。資料を作る際はいつまでにこの基準に達するということを明記することを勧める。

2 議題

（１）阿賀野市行政改革推進計画（次期計画）について

事務局から資料 1－1 を使用し、阿賀野市行政改革推進計画 2025-2028 案について説明

○委員 安田体育館について、（資料 2－2 で）廃止検討となっているが、行政改革推進計画の計画期間中に決定されるのか。利用者が増えており、避難所としての利用も想定される。いつ頃わかるのか。

○事務局 行政改革推進計画では具体的に個別施設について決めてはいない。公共施設等総合管理計画において、施設の延べ床面積を 20%削減していくという大きな目標の中で、個別の施設の方針をアクションプランの中で検討することになっている。どの施設をいつまでにどうするかはもう少し議論が必要。

○委員 施設が老朽化、耐震化されていないため、事故が起きる前に決断しないといけない。また、安田地区に空き家が結構あるという話をきいている。空き家を活用して人口を増やしていけば状況も変わっていくと思う。

○事務局 人口をどう増やしていくかは総合計画でも取り上げており、市の大きな課題と捉えている。様々な意見をどう取り上げて議論していくか、その仕組みをつくり上げるのも、この行革の中の 1 つと考えている。

○委員 公共施設を 20%減らす根拠は何か。資料では人口に対しての延べ床面積は他市と

比較して多くないとなっているが。

○事務局 他市と比較してそれほど多くが、他市もやはり今後削減する方針を打ち出している。人口が減少していくことが目に見えて将来展望で出ているため、税収等の減や利用者も減少していく。将来的な人口の推移も見据えた上でニーズに合ったサイズにすることと、維持管理費用の削減というねらいで20%削減ということにしている。

○委員 安田体育館は、綺麗だったら利用者も増えるのではという気持ちがあったが財源の展開があればしょうがない。

○事務局 人口が減っていくというのは間違いないので、どんなにいい施設でも全体が減っていくと現在の施設をそのまま維持すると難しい。どれを残していくか、その取捨選択はこれからになるかと思う。

○委員 実際京ヶ瀬の人口は増えている。なぜかという、やはり新しい道路ができて新潟から通いやすいという話も聞いた。安田もいずれ道路ができると、人口も増えるのではなにかと思ったときに、やはり体育館はあった方がいいのかなと思う。

○事務局 色々な考え方があり、先ほど説明の中で多機能化という話もあったが、体育館に複合的な機能を持たせたりという考え方もあって、学校にも体育館が備え付けられているので、そこをうまく活用したりという手法も考えられなくはない。どうしていくかはまた議論して、どういった使い方が望ましいのか、今後維持管理していくのにどれぐらいの財源が必要になってくるのか、そこまで試算した上で比較して議論していくという流れになろうかと思う。

○委員 体育館の話が出たので、旧4市町村に今のところ体育館があるが、今はまず2つをどうするかと考えている段階か。やはり旧4町村が頭にあり、それぞれに欲しいとなるが、やっぱり人口も減っていくとなれば、4つ本当に必要なのか、2つをやめてという話になるか。

○事務局 そのとおりで、合併してもう20年経つ。地区にこだわらず、公共サービスを提供していく上で、立地等の問題もあるが、市全体としてどれぐらいのサービスが必要になるか、そこをシミュレーションして取り組んでいく必要があると考えている。

○委員長 今どちらかというアクションプランの中の個別の施設に対する意見があったが、それらを受けて、総合計画の中にも持続可能ということをあえてテーマに挙げ、さらに行政改革の視点ということも今度は明確に総合計画の中に明記されている。総合計画はPDCAを使って効果的に見直しをかけながらやっていくという考え方を持っていて、行政改革についても今度はメインで考えていくと総合計画でうたわれている。そこで推進計画を効率よくチェックをかけて、そして見直して、また1歩ずつ進んでいくための考え方が、この計画上でコメントされていないような気がするが、どんな考えを持っているか。この推進計画がいわゆる行財政計画になると思うが、それを効率的に進めていくための記載がなかったと感じる。

○事務局 こうして委員会で審議いただいているように、毎年この行政改革推進委員会の会議で1年間の取組を報告し、その内容について審議いただき、その意見を次の年の行政に反映させていくといったチェックの機能を果たす場所と考えている。成果指標の目標数値に到達するような仕組みを講じていくといった文言を記載したいと考えている。他にも不足があれば盛り込みたい。

○委員長 総合計画ではPDCAサイクルをまわしていくということをはっきりとうたっている。当然ながらその中には行政改革の視点もあり、持続可能な行政運営をしていくためには、その行財政改革の取組も連動していくとなっているため、どんな考えか気になった。PDCAのCとA、これを具体的にここに明記することは必要ないと思うが、どこかでうたわれてくるとよいのではないか。この委員会が、報告会のような感じにならないようにしたい。

○事務局 いただいた意見は資料のように答申としてまとめ、それをもとに行政として新たに取り組むもので、決して報告会というつもりはない。そうとられないような形に整えた

い。

○アドバイザー 1つ目、まず資料1-1の第4スライド。行政改革推進計画の目的と効果の
ところの記載について、目的がわかりづらいので直してもらいたい。

2つ目、22スライド。総合的政策と分野別政策1から6の関係はどういう関係か。

縦割りで分野別に1から6まであった上で、それを横串・横割り、あるいは1から6を支えるように横断的にこの総合的政策があるという認識でよいか。（そのとおり）

3つ目、最後の27スライド。これまで基本目標と取組が記載されているが、それらを測る
成果指標になっていないのではないか。また、市民アンケートに基づく「感覚的指標」とあ
るが、これは「定性的指標」だと思う。定性的指標については、やはり最初は市民アンケー
トで聞くしかない。感覚的指標というネーミングよりも、市民アンケートによる定性的指標
という意味で測ったらどうか。

○事務局 総合計画ではそれぞれ指標を定めており、これらの項目について管理していく
ことにしている。その中で行政改革に係る主要なところとして、これらの指標をピックアップ
したところ。一番上の主要指標として、財政調整基金の残高比率、ここをキープしながら
行政経営し、健全財政が図られているか判断できるものととらえている。

（２）答申内容について

事務局から資料2、資料2-1、2-2を使用し、答申案について説明

○委員 概ね相当議論した結果の答申案であるので、全く問題はないと考える。振り返っ
てみると、資料2-1の7ページ目、情報システム管理運用事業に関して、先ほどアドバイ
ザーがおっしゃっていたが具体的に進捗を測れる数値がないと考える。今回はこれで良いが、
今後具体的なものを示していただきたい。

○事務局 これについては、当初国が示すゴールは令和7年度中にはこの共同クラウドに
移行すること、また、標準化共通化を完了することとなっていたが、先日の閣議で、移行困
難な特別の事情がある場合は、最長5年間延長するという方針が示されたところ。法律で決
まっているため、従う必要があり、また5年延長したからといって何の理由もなしに5年延
ばせるわけではない。本市においても、現在システム導入事業者と打合せをして、計画どお
りに進めることができるかどうか検討を続けている状態にある。そのため現時点で具体的数
値を示すことができていない。国が示すゴールが100%の進捗率だとすると、8割方はいつ
ていると思うが、提供されるシステムの不具合がないか、そうした検査など大きなものが控
えているため、皆様に示すには、もう少し時間をいただきたい。

○委員長 今の答申としては、前回の委員会を踏まえた年度ごとの進捗管理というような
意味合いが強い。資料の進捗管理シートの一番上の令和3年行政改革推進委員会の意見の
ところに、当初5年間のアクションプランを市から提示されたときに、行革委員会で出した意
見が記載されている。例えば、先ほどの安田体育館では、行政改革推進委員会意見として4
つ記載があり、現在の利用者の振分けを円滑することや、利用者の意向を確認すること、水
原体育館や笹神体育館の配置、或いはその利用状況を把握するようになど、総括的な意見が
出ている。これを踏まえて取組の進捗管理をしていくという意味合いとして考えていい。補
足的に説明させてもらった。

○アドバイザー 資料2-1の2ページ、令和5年度の委員会の意見欄の「効果が表れてない
ようであれば」のところ、あらわれるは「表」ではなく「現」。

2つ目は12ページ、令和5年度の委員会意見のところ、「施設の在り方、方向性を定め、
目標を設定して計画的に進めること」について、この場合、方向性と目標はどちらを先に決
めるか。白鳥の里をどのようにもっていったらいいか、方向性、整備だとか廃止だとか方向
性を決めた上で、いつまでに何をするっていう目標を定めるという理屈か。

○事務局 そのような認識でいる。

○アドバイザー 逆のやり方もある。目的を決めて、その方向に向かって、どのようにいつどの話をするかというやり方。阿賀野市では後者のやり方ではなく、前者のやり方でアプローチしていくことを確認した。

3つ目、資料2の答申案の文章について、今日における市民と行政との協働においては、謙譲語を用いるべきではないと思う。謙譲語でなく丁寧語に直すべき。

○委員 資料2-1の地域ポイントカード事業とアポカードについて、利用があまりなかったことで廃止の方向になると決まったのか。

○事務局 APOポイント、アポカードは民間事業所が運営しており、それは継続する。廃止検討としたのは、行政のイベント等に参加してもらったときに、行政が与えるポイントはなしにするということ。既存のポイントはこれからも使える。

○委員 資料2-2の福祉会館について、令和5年で大規模改修の検討となっていて、概ね妥当と認めるということは大規模改修が計画としては進んでいくということか。

○事務局 前回の会議で令和5年度の取組内容について報告させていただいた。その取組内容が21ページの後段の取組実績のところに書いてある部分になる。この類似施設への利用者振分けが可能か検討していくというところの報告をさせていただiki、特段意見がそこにはなかったことから、当初計画のとおり令和6・7年度も令和5年度の方針に基づいた取組を進めて行くということ。

○委員長 大規模な改修は必要。これを進める中で、現在の利用者をどう振分けていったらいいかを検討していくという単年度の取組は妥当というだけの話。進捗管理をして、先ほどのように色々な意見を出してもらい、それを踏まえてPDCAを回していくことが大事。行政改革推進計画についても同じ。（資料の見方について）それが頭になくなかなか理解しづらいと思う。

○委員長職務代理 各地域で減らす改革、見直す改革の話はよく聞くが、先ほどの話のように人口が増えているところもある。市として何か増やす取組、増やすことができればこうしていけるという取組はあるのか。

○事務局 例えば、京ヶ瀬地区において人口が増えているという話があったが、児童クラブについて、公営で開設しているものが1つだったが、令和6年度にもう1つ開設して、2ヶ所で子供を預かっている。ニーズが増えて、それに合わせて行政サービスも拡大したといった事例がある。必要なものについては必要な量を提供したいとは考えているが、そればかりでは財源が伴わないところもあるため、削れるところは削ると考え、ビルドアンドスクラップの考え方で進めていきたい。

○委員長職務代理 阿賀野市は形状が割と四角に近い。他の市町村よりも形がいい。そうした部分ではバラバラに施設があるよりも、まとまってできてもいいのかと思う。新潟市から非常に近く、山も近い、非常に良い場所で、先ほどのとおり京ヶ瀬地区は団地も増えている人が増えている。新潟市の中心からの距離から考えれば西蒲区よりも阿賀野市が断然近い。そういった部分ではまだまだここは伸びる地域だと思うので、そこでの改革も必要だが、ビルドの方、伸ばすような工夫や取組も考える必要があると思った。

○事務局 先ほど、総合計画について紹介した。これまでの総合計画では4地区の均衡ある成長をイメージしたような取組を記載していたが、今回は4地区のといった言葉を取り除いて、地政学的なものを生かしたまちづくりという要件を入れている。それが具体的に何かというのは、これから事業が構築され、皆様の意見をいただいたところで反映されるものだと思う。地形がいびつでない、行政コストが低くなるような地形を生かし、かつ、施設や住宅などをできれば集約した形で効率よく運営できるような意見だと思う。総合計画の基本計画にも記載しており、それを目指していくが、やはりそれぞれの地域の皆様がいるので、その方々の意見もいただきながら、どれがいい道なのか考えて進めていきたい。意見として参考にさせていただきたい。市の目指すところと一致していると考えている。

○委員 1ヶ月ぐらいに前に、新潟日報に阿賀野市の新年度予算の記事が掲載されていて、安田地区のB&Gプールと水原地区にも1ヶ所、2ヶ所で子供たちの水泳指導を行うという

ようなことを聞いたが、そのことについて教えてほしい。

○事務局 各地区各小学校にそれぞれプールがあったが、建築から 20 年ぐらい経っていて老朽化が始まっている。古いものについては 30 年以上経っているものがある。それぞれを運営していくコストや修繕費なども非常に高騰しているため、集約することで子供たちのプール授業は継続したい。ただ、どこに集約するかといったときに、提案として、水原小学校にプールを 1 つ設け、さらにそれだけでは授業数がまかないきれないため、安田地区の B & G 海洋センターのプールをもう 1 つ使って、市内の子供たちのプール授業を進めていきたいというもの。まだ使える学校の既存のプールは、その計画最終年度までは使っていき、維持できなくなったときには集約化されたところでの授業を考えている。

4 その他

○事務局 連絡事項。行政改革推進計画策定の今後のスケジュールについて、本日の会議の意見を踏まえ、今後は議会説明とパブリックコメントを実施する。その後、パブリックコメントで寄せられた意見に対する市の考え方を示し、委員へ報告して、公表する。4 月末目途。本会議の議事録について、議事要旨を作成したら、確認をお願いしたい。本日の会議で言い足りない意見は、意見質問シートに記入して提出いただきたい。

5 閉会